

平成28年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2018

甲州市教育委員会

平成 28 年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2018

甲州市教育委員会



## 序

甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡（黒川金山）の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成 28 年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。28 年度は 3 地点の遺跡について試掘調査を行っています。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月 30 日

甲州市教育委員会

教育長 保坂 一仁

## 例　言

- 1 本書は、平成 28 年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
- 2 事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
- 3 事業の期間は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までである。
- 4 本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

## 凡　例

- 1 本書中、各遺跡の調査地点を示した図（4 ページ）は国土地理院発行の 1/50,000 地形図（御岳昇仙峡、丹波、都留）を改変して使用した。
- 2 縮尺、方位等は各図中に示した。方位の無いものは真上北である。

## 目　次

### 序

### 例言・凡例・目次

第 1 章 遺跡の所在確認業務について	1
第 2 章 発掘調査等について	1
第 3 章 発掘調査等の概要	2
第 1 節 事業費	2
1 事業経費収支予算書	2
2 事業経費収支精算書	3
第 2 節 発掘調査等	5
1 ケカチ遺跡・后畠西遺跡	5
2 橋爪氏屋敷	12
3 源吾田 1155-1 他	19

### 抄録・奥付

## 第1章 遺跡の所在確認業務について

平成28年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

保坂一仁	甲州市教育委員会教育長
曾根 浩	教育委員会文化財課長
小野正文	文化財課文化財指導監
飯島 泉	文化財課歴史まちづくり担当リーダー
岩間大介	文化財課歴史まちづくり担当
齊藤陽介	文化財課歴史まちづくり担当
萩原麻由	文化財課歴史まちづくり担当
	八巻一也 文化財課文化財保護担当リーダー
	入江俊行 文化財課文化財保護担当
	北井靖人 文化財課文化財保護担当
	柳通めぐみ 文化財課文化財保護担当

開発計画に伴う遺跡の所在確認と不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、28年度は269件を数えた。内訳は、開発計画に伴うもの238件、不動産鑑定に伴うもの31件であった。

## 第2章 発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第93条及び94条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会で工事立会いとし、3件については試掘調査を実施した。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者 入江・柳通

発掘調査・整理作業員 雨宮久美子・北野礼子・北村透江・栗原礼子・里吉奈美子・土屋常子・土屋晴子・中澤保・長田秋文・萩原里江子・正木なつ子・宮原雄二・吉原智美

## 第3章 発掘調査等の概要

### 第1節 事業費

#### 1 事業経費収支予算書

収入の部

	金額	備考
国庫補助金	1,053,000 円	2,106 千円の 50%
県費補助金	500,000 円	2,106 千円の 25%以内
甲州市負担金	553,000 円	
計	2,106,000 円	

支出の部

	金額	備考
報償費	0 円	
旅費	0 円	
賃金	1,050,000 円	発掘 114 日 × 7,000 円、整理 42 日 × 6,000 円
需要費	408,000 円	
消耗品費	30,400 円	調査・整理消耗品
印刷製本費	377,600 円	報告書 1,150 円 × 300 冊 × 1.08、他写真・資料コピー等
役務費	0 円	
委託料	0 円	
使用料及び賃借料	648,000 円	機械借上げ 32,400 円 × 20 日
計	2,106,000 円	

## 2 事業経費收支精算書

## 収入の部

(上段：精算額 下段：予算額)

	金額	備考
国庫補助金	1,053,000 円	2,106 千円の 50%
	1,053,000 円	
県費補助金	500,000 円	2,106 千円の 25%以内
	500,000 円	
甲州市負担金	855,587 円	
	553,000 円	
計	2,408,587 円	
	2,106,000 円	

## 支出の部

(上段：精算額 下段：予算額)

	金額	備考
報償費	0 円	
	0 円	
旅費	0 円	
	0 円	
賃金	1,588,500 円	発掘 34.5 日 × 7,000 円、整理 224.5 日 × 6,000 円
	1,050,000 円	
需要費	434,527 円	
	408,000 円	
消耗品費	29,527 円	三角ホー、三角削り、カラフルコーン・ウェイト、ビニール袋等
	30,400 円	
印刷製本費	405,000 円	平成 27 年度市内遺跡発掘調査等事業報告書
	377,600 円	
役務費	8,640 円	
	0 円	
委託料	0 円	
	0 円	
使用料及び賃借料	376,920 円	重機借上げ 259,200 円、プレハブ・トイレ 117,720 円
	648,000 円	
計	2,408,587 円	
	2,106,000 円	



平成28年度市内遺跡発掘調査地点

## 第2節 発掘調査等

### 1 ケカチ遺跡・后烟西遺跡

- (1) 所在地 甲州市塩山下於曾 850-2、塩山熊野 329-2
- (2) 調査面積 約 36.8m<sup>2</sup>
- (3) 調査期間 平成 28 年 7 月 26 日～8 月 5 日
- (4) 調査原因 市道整備
- (5) 調査結果

当地は、塩川左岸の微高地上に位置し、埋蔵文化財包蔵地であるケカチ遺跡および后烟西遺跡の範囲内となっている。当地内に市道（下塩後 22 号線）が新設されることとなり、新設道路部分についてはすでに昭和測量株式会社に委託して発掘調査を実施し、奈良・平安時代の集落跡が検出され、記録保存調査を完了している。その発掘調査中に、当初の工事計画の範囲になかった部分の削平を行う計画が生じ、発掘調査の契約変更で対処しようとしたが、工程・予算上の問題から実施することができなかったため、昭和測量が調査を終了した後、削平予定部分については、甲州市教育委員会が補足的に調査を実施することとした。

調査区は昭和測量㈱が調査を行ったケカチ遺跡の調査区南縁にあたり、すでに S D O 9 等の遺構が調査区外に延び、遺構の存在が確実な状況であること、また、遺構に対し十分な保護層を確保することが出来ないこと等が、調査を必要とした主要な要因である。

ケカチ遺跡（下於曾 850-2 地点）は、すでに発掘調査が実施され遺構番号が付されている溝 S D O 9 の追加調査を実施した。S D O 9 は東西方向に延びる溝で、既調査部分も含めると長さ 30.3m、幅 2 m、深さ 40 ~ 70cm を測る。重複する住居跡 S I 3 8 を切って構築されており、発見された集落跡より新しいと考えられる。また、現在の歩道とほぼ同じ位置で同じ方向に走る溝であることが確認できており、この地点が大字の境界（下於曾・熊野）にあたることから、区画を意図した溝と推定される。遺物は小片のため図示できるものはないが、土師器・須恵器・灰釉陶器・陶磁器等の小片が出土している。

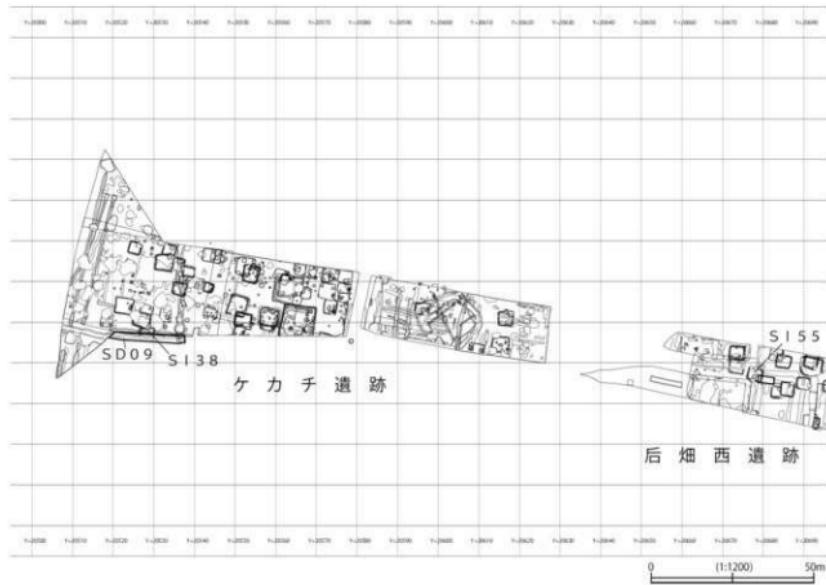
后烟西遺跡（熊野 329-2 地点）は、住居跡 S I 5 5 に重なっていた電柱の撤去が遅れたため、追加調査を実施し、竪穴建物 S I 5 5 を完掘した。遺物は土師器小片が出土している。

以上 2 地点の調査成果を加え、市道下塩後 22 号線建設工事にかかる記録保存調査を終了した。

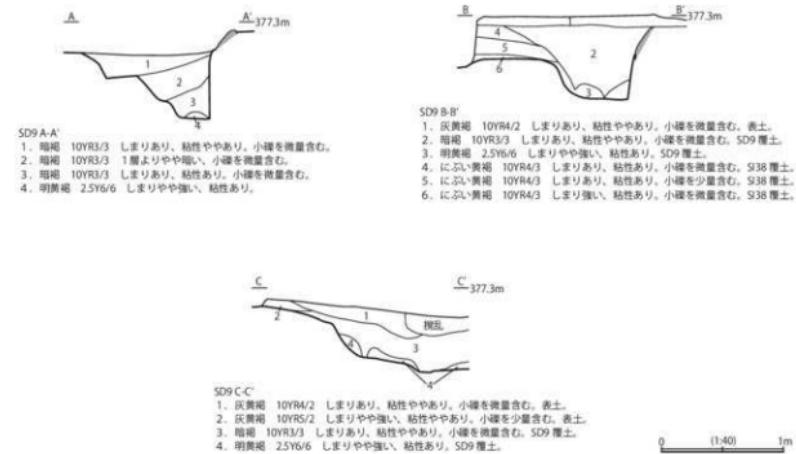
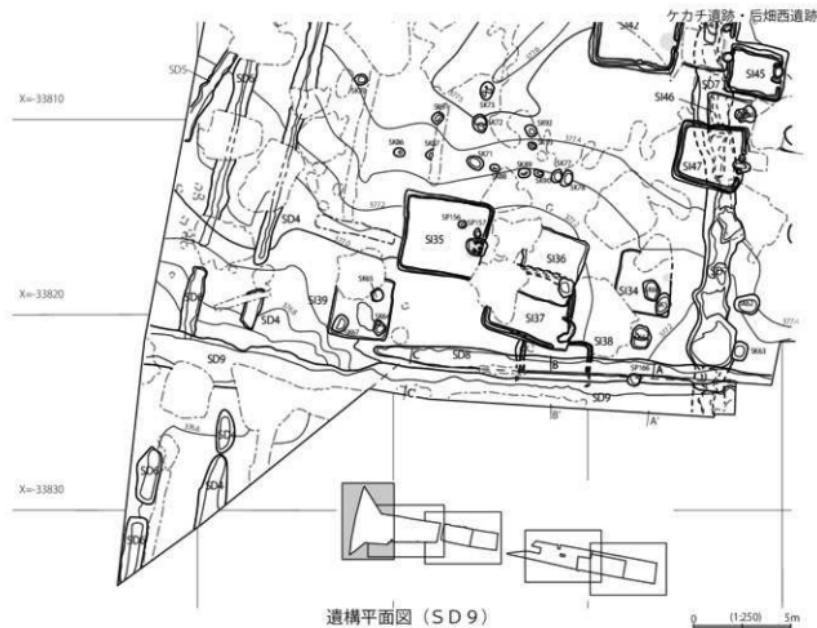
ケカラチ遺跡・后畠西遺跡



調査地点位置図



ケカラチ遺跡・后畠西遺跡遺構平面図（太枠内が調査対象）



SD 9 断面図



ケカチ遺跡空撮（東から）



后畠西S 155付近、中央の電柱部分を補足調査（東から）



后畠西S155完掘（南から）



調査風景（SD9・東から）



ケカチ S D 9 B - B' 断面（西から）



ケカチ S I 3 8 完掘（北から）



ケカチSD9完掘（西から）



ケカチSD9完掘（東から）

## 2 橋爪氏屋敷

- (1) 所在地 甲州市塙山上於曾字梅ノ木 1345 番 6 の一部、1438 番 2
- (2) 調査面積 約 59.4m<sup>2</sup>
- (3) 調査期間 平成 28 年 9 月 6 日～9 月 12 日
- (4) 調査原因 集合住宅建設
- (5) 調査結果

調査地点は塙山上於曾地内に位置し、重川と塙川に挟まれた扇状地の微高地上に立地する。当地は埋蔵文化財包蔵地「橋爪氏屋敷」の範囲内となっており、工事着手前に、遺跡の有無を確認するための試掘調査を実施することとした。なお、今回の調査地点の西側隣地で、部分的に本発掘調査を実施した経緯があり、その時の成果によれば、堅穴建物が 10 軒以上の規模で検出されており、今回の調査区でも関連遺構の検出が予想された。

開発対象地区内に 3か所の試掘坑（以下 A～C トレンチ）を設定した。

A トレンチは敷地の北側、集合住宅建設予定範囲内に 10 × 1.7m の規模で南北方向に設定した。地表から約 60cm 堀り下げたところで、基盤層と考えられる黄褐色土層（3 層）を検出した。この面で遺構確認精査を実施したが、遺構は検出されず、近現代の搅乱がいくつか検出された。遺物は縄文土器、土師器小片等が検出されている。

B トレンチは敷地の東側に 14.7 × 1.5m の規模で南北方向に設定した。地表から約 80～90cm 堀り下げたところで、しまりの強い灰黄褐色砂質土層（4 層）を検出した。当初この層を基盤層として遺構確認精査を実施したが、部分的に黒色土が広がる部分があるなど不安定な土層であったため、一部、下位の土層まで掘り下げた結果、浅黄色砂質土層が基盤層であることが分かった。遺構は検出されなかつたが、4 層中に土器の小片が含まれていた。4 層は砂粒や礫を含み、下位の基盤層への浸食が部分的にみられることから、滯水の起こる湿地状態であったことが窺え、土器などの遺物はいずれも小片であり、周囲に展開する遺跡からの流れ込みと推定される。遺物は土師器片、陶磁器片で 4 层中からの検出が顕著であった。

C トレンチは敷地の南側に 13.2 × 1.4m の規模で東西方向に設定した。中央に烟管の通る部分があったため、破壊を避け、一部未調査とした。地表から約 80～90cm 堀り下げたところで、基盤層と考えられる黄褐色土層（4 層）を検出した。この面で遺構確認精査を実施したところ、西半からピット（小穴）を 2 基検出した。ピットは重複しており 1 ピットが 2 ピットを切る。調査区外に延びるが、規模は 1 ピットが直径 1.1m、深さ 80cm、2 ピットが直径 0.5m、深さ 60cm を測る。なお、ピット内から遺物は検出されなかつた。

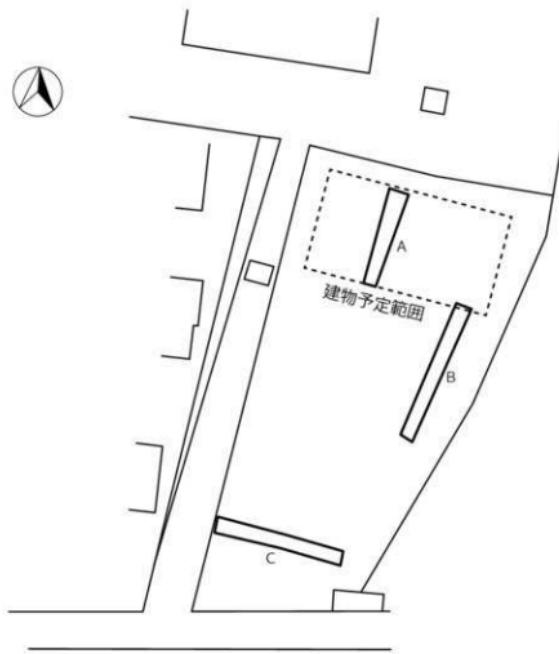
東半から遺構は検出されておらず、B トレンチ 4 层と同様な様相を示しており、同じく湿地状態であったと考えられる。3 層中（B トレンチ 4 层相当）から土師器片、陶磁器片が検出されており、いずれも小破片である。

調査の結果、A・B トレンチからは遺構は検出されず、C トレンチからピットが 2 基検出された。

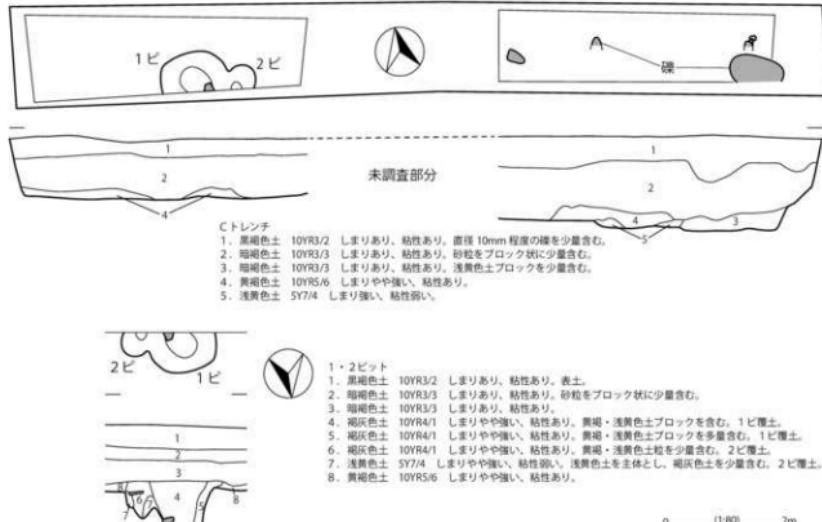
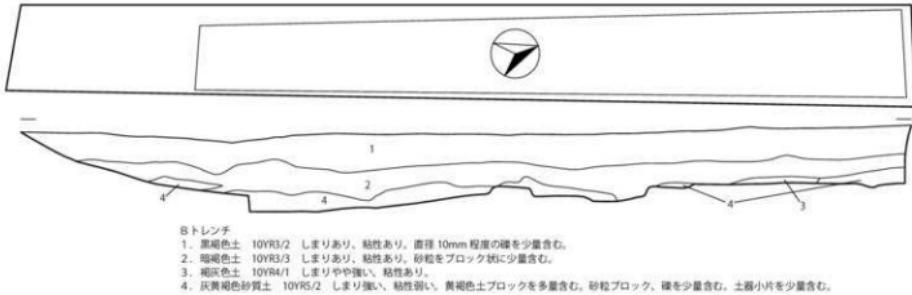
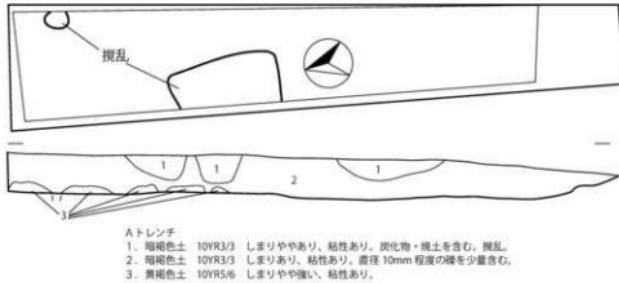
A トレンチは集合住宅の建設予定地内であるが、遺構が検出されず、遺物の検出状態も顕著とは言えないことから、工事を着工することについて問題は無いと判断した。

Bトレンチは遺構が検出されなかったが、下層からの遺物の検出がもっとも顕著であった。しかし、土層の堆積状況から滯水など水の影響があった場所と考えられ、出土遺物がいずれも小破片で復元可能個体が見られないことから、周辺遺跡からの流れ込みであろうと結論付けた。Cトレンチから検出されたピットは遺物が検出されなかったため、時期は不明であるが、少なくとも近世以前に遡る可能性がある。B・Cトレンチはいずれも駐車場予定範囲であり、遺跡の破壊は想定されない。

冒頭で触れたように、調査地点西側の隣地からは平安時代の集落跡が発見されており、その集落の範囲がどこまで及ぶのかが今回の調査における課題の一つであったが、この集落の東側にはB・Cトレンチで確認されたような湿地が広がっており、およそその辺りまでが集落の東限域と判断される。試掘調査の結果から、今回の工事によって破壊される遺構が想定されないことから、本発掘調査を実施する必要はないものとした。



0 (1:500) 10m



A～C トレンチ平断面図

0 (1:80) 2m



A トレンチ断面（北西から）



A トレンチ遺構確認状況（北から）



B トレンチ断面（北東から）



B トレンチ遺構確認状況（南から）



C トレンチ断面（南東から）



C トレンチ1・2ピット完掘（北から）



C トレンチ遺構検出状況（東から）

### 3 源吾田 1155-1 他

- (1) 所在地 甲州市塙山下於曾字源吾田 1155-1、1155-3、1158、1159
- (2) 調査面積 約 65.5m<sup>2</sup>
- (3) 調査期間 平成 28 年 9 月 25 日
- (4) 調査原因 宅地造成
- (5) 調査結果

調査地点は塙山下於曾地内に位置し、重川と塙川に挟まれた扇状地の微高地上に立地する。当地は埋蔵文化財包蔵地内に含まれていないが、1000m<sup>2</sup>を超える大規模な開発が予定されていることから、当該地内における遺跡の有無を確認するための試掘調査を実施することとなった。

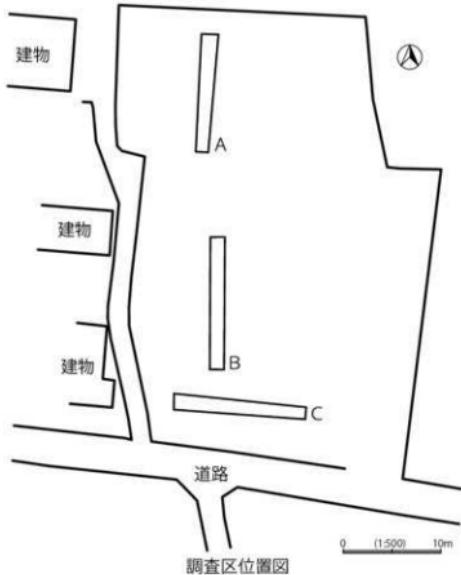
開発対象地区内に 3か所の試掘坑（以下 A～C トレンチ）を設定した。

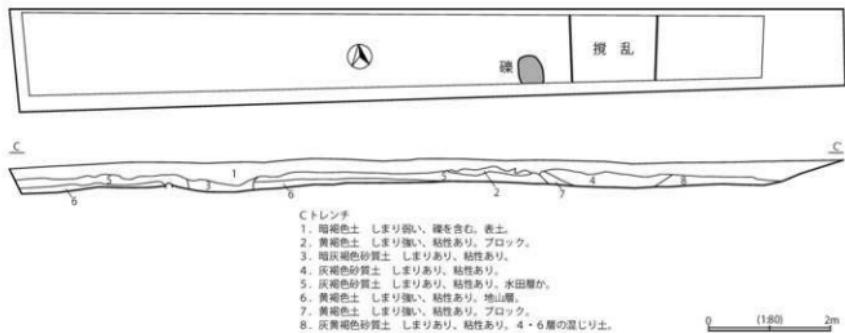
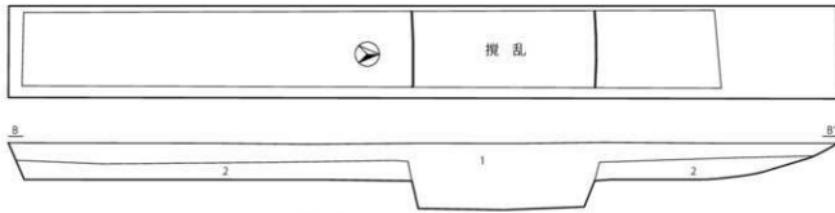
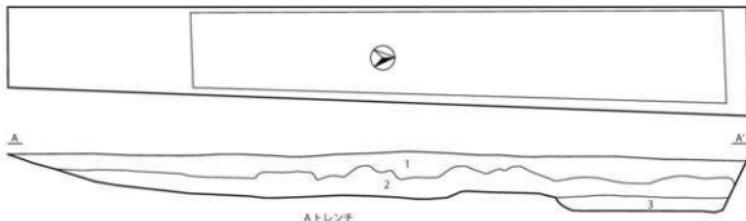
A トレンチは敷地の北側に 12.1 × 1.6m で南北方向に設定した。地表から深さ 50～60cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

B トレンチは敷地の中央付近に 17.8 × 1.5m で南北方向に設定した。地表から深さ 50～60cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行ったが、大規模な搅乱が入っており、遺構・遺物は検出されなかった。

C トレンチは敷地の南側に 13.6 × 1.5m で東西方向に設定した。地表から深さ 20～30cm まで掘り下げたところ、基盤層（地山）と考えられる褐色土層を検出したため、その面で遺構確認精査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかった。

調査の結果、遺構・遺物が検出されなかったため、遺跡の存在する可能性はきわめて低く、本調査を実施する必要はないものとした。





A～C トレンチ平断面図



A トレンチ断面（北東から）



A トレンチ遺構確認状況（北から）



B トレンチ断面（北東から）



B トレンチ遺構確認状況（北から）



C トレンチ断面（南西から）



C トレンチ遺構確認状況（東から）

## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ
書名	平成 28 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 27 集
編著者名	入江俊行
編集機関	甲州市教育委員会
所在地	〒 404-8501 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1 電話 0553-32-5076
発行年月日	平成 30 年 3 月 30 日

ふりがな	ふりがな	コード	世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯 東経				
ケカチ遺跡・ 后烟西遺跡	甲州市塩山下於曾 850-2, 甲州市塩山熊野 329-2	19213	ケカチ遺跡 塩 28 后烟西遺跡 塩 29	ケカチ遺跡 35° 41' 42" 后烟西遺跡 35° 41' 41"	138° 43' 38" 后烟西遺跡 138° 43' 45"	平成 28 年 7 月 26 日～ 8 月 5 日	約 36.7m <sup>2</sup>	市道整備
橋爪氏屋敷	甲州市塩山上於曾 1345-6,1438-2	19213	塩 214	35° 42' 27"	138° 44' 1"	平成 28 年 9 月 6 日～ 9 月 12 日	約 59.4m <sup>2</sup>	集合住宅
源田 1155-1 他	甲州市塩山下於曾 1155-1-3,1158, 1159	19213	なし	35° 41' 58"	138° 43' 32"	平成 28 年 9 月 25 日	約 65.5m <sup>2</sup>	宅地造成

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ケカチ遺跡・ 后畠西遺跡	集落	奈良・平安	竪穴建物・溝	土師器片	補足調査
橋爪氏遺跡	集落	平安～近世	小穴	土師器片・陶磁器片	
源吾田 1155-1 他	包藏地外	不明	なし	なし	

山梨県甲州市  
平成 28 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書  
2018  
発行 甲州市教育委員会  
住所 山梨県甲州市塩山上於曾 1085-1  
電話 0553-32-5076  
発行日 平成 30 年 3 月 30 日  
印刷 株式会社 峡南堂印刷所